

平成28年度金沢大学学校教育学類附属学校園連携G P
(附属学校園連携G P) 活動成果報告書

取組名称 (全角20 字以内)	効率的・効果的な理想の高大連携の研究		
	副題(サブタイトル) 負担増にならない「効率的・効果的な連携」のモデルケースの開発・発信		
取組学校等	金沢大学附属高校		
連携学校・学類	金沢大学人間社会学域学校教育学類	取組期間	平成28年4月～平成32年3月 (4年)
	石川県立学校		
ふりがな	まえだ たけし	所属校園名	附属高校
実施担当責任者	前田 健志	及び職名	教諭(地歴公民・SGH)
電話番号	080-1445-9753		
e-mailアドレス	maedatakeshi@staff.kanazawa-u.ac.jp		

1. 取組の活動内容と成果

※取組の具体的な実施内容と成果について、当初設定した目的・趣旨・期待される教育効果に照らし、1ページ程度で分かりやすく記述してください。必要に応じ、図表等を用いても構いません。

※成果物等がある場合は、この報告書とあわせて提出してください。

1 教材研究会について

メンバー全員のスケジュールを合わせる事が非常に難しいことを考慮しつつ、研究会の回数を確保するため、様々な形・出席メンバーの研究会を今年度は行った。

①総合社会(地理・歴史・公民)的な「テーマ」を定めた勉強会(H27年度から継続して実施)

平成28年度は2回実施(7月と12月)

成果

一切無駄のない議論を重ねているため、充実した約3時間を過ごせている。次期指導要領などを見据えた地理的・歴史的・公民的な視点で同じ題材を見つめ、専門でない分野の指摘をもらうことで、自分の教材を見直すいい機会になっている。評判がよく、徐々にメンバーも増加している。

課題

やはり職場が違うメンバーが多いためスケジュールリングが非常に難しい。また、メンバーが増えてくると議論もしにくいため、メンバーのスケジュールより回数を重視し、研究会の成果をメンバー全員で共有していく方向で動いていく。

②公民科に絞った教材研究会(附属高校教員1名と大学教員1名)(H27年度から継続して実施)

平成28年度は10回実施(4月2回、5月3回、6月2回、7月3回)

成果

後述する学校教育学類4年生に対する「社会科カリキュラム研究Ⅱ」の講義を附属高校教員の前田が行っているが、その講義の始まる前の1時間半を利用し、金沢大学の学校教育学類研究室で公民科中心の教材研究会を行った。山本英輔教授と附属高校前田が中心に、生徒・学生がより関心が高まるような教材を協働で作り上げた。両者ともに授業力が向上した。

課題

授業のない後期は、なかなか金沢大学に行く機会がなく、まとまった時間をとることができなかった。来年度は後期科目「社会科カリキュラム研究Ⅰ」の講義も受け持つことにし、研究会の時間を確保するつもりだ。大学教員にも附属高校で講義してもらう時間を増やし、Win-Winの関係を維持していけるように計画するつもりだ。

③高校教員と教育関連企業(ベネッセ・河合塾)による教材研究会

平成28年度は5回実施(6月1回、11月1回、12月2回、1月1回)

成果

教育関連企業は熱心に教材開発を行っている。現場の教員とともに教材を協働で作上げ、それを上記の高大連携の研究会で情報共有し、還元できた。

課題

教育関連企業も上記の高大連携の研究会の参加を熱望しているが、スケジュールリングの問題があり、実現していない。来年度は是非実現したいが、実現しない場合は、現在のような形式を続けていく予定だ。

④附属高校教員と学校教育学類学生による教材研究

平成28年度は1回実施

成果

「社会科カリキュラム研究」選択者が附属高校前田の授業見学後、本時の教材についての研究を行った。それぞれの学生が自分の視点で現場教員の教材の改善策を提案し、再度教材を構築しなおす試みを行った。教師を学生とともに教材を見直していくことは、両者にとっても有意義な時間となった。

課題

角間キャンパスと平和町キャンパスが離れており、講義を間を縫って受講者全員が来校する形だと頻繁に実施することができない。来年度は、附属高校教員のスケジュール(時間割)をあらかじめ受講者に配布し、学生個人個人にスケジュールリングをさせ、このような研究会を多く実施できるようにする予定だ。

⑤附属高校教員と教職大学院生(ストレートマスター)による教材研究

平成28年度は3回実施(4月1回、5月2回)

成果

以前から実施している「新聞小テスト」の更なる充実や、附属高校教員の授業を題材に、生

徒と教員の授業中の会話・議論の在り方の研究を試みた。また附属高校と教職大学院の理想的な連携の在り方を模索した。

課題

5月までは順調に研究や連携が進んでいたが、教職大学院生の体調不良による長期休養により、中断を余儀なくされた。来年度、教職大学院生が附属高校地歴公民科に配属される場合は、この研究を続けていく予定だ。

2 大学教員との TT について

H28年7月 特別時間割「私の体は本当に私のものか」を1年生3クラスで実施(平成27年度～継続)

成果

昨年度から引き続き、生徒に好評の TT 形式での現代社会の生命倫理・哲学分野の授業を実施し、生徒の哲学的思索が深まった。

課題

過密スケジュールや時間割変更の難しさもあり、学期に1度は実施できなかった。もう少し柔軟に TT 形式を取り入れられるよう、カリキュラム改善を図っていく。

3 附属高校教員による大学での講義について

H28 年度前期「社会科カリキュラム研究Ⅱ」を、附属高校の前田が担当。

H28 年度前期 GS 科目「地域概論」の1時間を、附属高校の塚田が担当。

成果

「社会科カリキュラム研究Ⅱ」の受講者のほとんどが教員採用試験に合格したことがまず嬉しい。授業者自身も学生と議論を重ねることにより、教材研究が深まった。来年度は後期「社会科カリキュラム研究Ⅰ」も担当することが決まっている。また、高校教員養成のため、このカリキュラム研究に人間社会学域の生徒が参加できるようにすることを模索中である。

課題

附属高校における時間割作成が苦勞した。来年度も時間割作成に関しては、時間がかかるであろう。附属高校が人員的に厳しい以上、なかなか解決することは難しい。

4 その他の活動・成果について

① 教職大学院との連携の模索

H28 年は総合的な学習の時間(2 年生グローバル提案(模擬国際会議)において、1 年を通じて教職大学院生(現職教員(英語))と連携。

② 高大連携の視察

H29 年 2 月 3 日(金)4 日(土)神戸大学附属中等教育学校で視察。

H29 年 2 月 18 日(土)第 4 回高大接続改革フォーラム人文社会分野(地理歴史・公民科)参加

③ 理想的なカリキュラム(コア・カリキュラム)の模索

→来年度中に完成予定

④ アクティブラーニングの実践

教室の机をコの字に配置した議論しやすい授業・リアクションペーパーの実施

ロイロノートを使った授業・模擬国連形式の授業

⑤リーサスを使った高大連携(金沢大学松浦先生)

6月7日(火) 於 附属高校 13:25~15:15(1年生地域課題研究)

2. 平成28年度の実施計画に対する達成度の自己評価

評価 (いずれかに○)	評価の理由
a. 達成できた <input checked="" type="radio"/> b. おおむね達成できた c. あまり達成できなかった d. ほとんど達成できなかった	中身の濃い、効果的な研究を行うことができた。しかし、効率面で課題が多いため、「b」と判断した。来年度は自信をもって「a」をつけられるようにしていきたい。

3. 今後の目標・展望

※今年度の実績を踏まえ、今後の目標・展望を500字程度で記述してください。

全体を通して、効果的な高大連携ができていますが、効率の面では非常に課題が残る。

一人で教材研究をするより、短時間で密度の濃い教材研究を行うことができるのは間違いないのだが、種々の研究会を勤務時間内ですべてを行うことは非常に厳しい。スケジュールリングも非常に苦労した。全国に発信していくには、できるだけ移動せず、勤務時間内で研究会ができる形を模索していく。方法として、スカイプやサイボウズの活用などが考えられる。H29年度、情報機器を活用しながら、効率の面でもう少し模索していきたい。

また H29 年度は H28 年度の研究会の内容を活かして、理想的なカリキュラムの構築に重点を置いて研究を進めていきたい。次期指導要領の実施が迫ってきている。科目の垣根を超え、大学と連携しながら効果的な地歴公民科のカリキュラムの実践を積み上げ、次期指導要領の次の指導要領の材料となるものを発信していく。

今年度の活動内容と成果で述べたが、人間社会学域(学校教育学類を中心に)や教職大学院との連携も一層充実したものになるよう、現在各関係機関と交渉中である(2017年4月現在)。高校教員養成と教職大学院との理想的な連携を、本研究から全国に発信できるようにしていく。